

静脈産業を育成する視点が盛り込まれた今回の廃棄物処理法改正。静脈産業の今後の進展に内外の関心が高まっている。昨年12月17日、松本龍環境大臣はインタビューに際し、国民の3Rに対する意識を具体的な行動に結びつけるための仕組みづくりやリデュース・リユースを重視した3Rの見える化」の推進により、環境負荷の少ない循環型社会の構築へ意欲を示した。また、産廃業界には、適正な処理の助行を求めるとともに、不適格な業者をチェックするシステムの構築で頑張っている人が報われる状況をつくってほしいと要請した。

3R強化・促進プログラム「見える化」を

—環境行政のトップ サイクル対策への抱負としてまず、廃棄物リ

松本龍(以下、松本)初心表明でも言ったが、大量生産、大量消費、大量廃棄社会から脱却し、資源効率が高く、環境負荷の少ない循環型社会へ移行することが社会の要請であり、その構築に取り組むたい。国民のごみ問題についての関心は高いが、3R(リデュース、リユース、リサイクル)行動の実施状況についてはマイバッグ持参や詰め替え製品などを除くと、50%未満で、ま

たまた道半ばだと思っ 高い水準にある国民のごみ問題への関心や

「頑張っている人が報われる状況を」

循環型社会構築へ3R見える化

スペシャルインタビュー



松本龍環境大臣に聞く

3Rに対する意識を具体的な行動に結びつけるための仕組みづくりやリデュース・リユースを重視した3R強化・促進プログラム「見える化」を推進する。また、レアメタルのリサイクルやPbとHPOの再ポトル化など、未利用資源の有効利用に積極的に取り組む民間のビジネスモデル確立の支援を行っていく。不適正処理防止に向けては、松本 大規模な事業は年々減っているが、撲滅には至っていないのが現状。不法投棄などが現状。不法投棄などの不適正処理の未然防止や拡大防止のための規制強化として、今回

の法改正で不適正処理がされやすい廃棄物の保管についての事前届出制度の創設や、建設工事に伴う廃棄物について、元請業者が処理責任を一元化、不法投棄の罰金を1億円以下にしたい。

ネシア共和国環境大臣努力している人、頑張っている人が、社会から選ばれ、報われる状況を作りたい。海外展開を推進するフリーマーケットを産業界として発展させていくために

不適格な業者をチエックするシステムを

—処理施設について 松本 処理施設に対する国民の信頼が十分得られていない現状がある。新たな施設の設置はきわめて難しくなっている。今回の法改正では、処理施設に対する信頼性の向上を図るため、定期的検査制度の導入、維持管理情報の公開などを盛り込んだ。それらを絡めながら、廃棄物の適正処理の確保のために、施設整備を図っていく。元氣な日本特別枠で、日系静脈産業の海外展開促進が注目された。松本 アジアでは、経済成長や人口増加に伴う廃棄物の発生量が急増しており、それらの不適正な処理による環境汚染や環境被害が懸念されている。日系静脈産業の育成・海外展開は、こうした事態の未然防止になり、新しい市場の開拓につながるはずだ。

—最後に、産廃業界がどう頑張りましたか。松本 私地元福岡で、廃棄物やリサイクルの仕事に携わっている方々を多く知っているが、まずは適正な処理をしっかりと行っている。この業界ももうだが、不適格な業者をきちんとチエックしていくシステムづくりをしなが、まじめに

ラム「見える化」を推進する。また、レアメタルのリサイクルやPbとHPOの再ポトル化など、未利用資源の有効利用に積極的に取り組む民間のビジネスモデル確立の支援を行っていく。不適正処理防止に向けては、松本 大規模な事業は年々減っているが、撲滅には至っていないのが現状。不法投棄などが現状。不法投棄などの不適正処理の未然防止や拡大防止のための規制強化として、今回

製造業者や小売業者と連携し、リデュース・リユースを重視した3R行動による天然資源の有効活用や温室効果ガスなど環境負荷削減効果の「見える化」の仕組みや条件を整備を、よりいっそう進めていきたい。具体的には、リユースを重視した3R強化・促進プログラム「見える化」を推進する。また、レアメタルのリサイクルやPbとHPOの再ポトル化など、未利用資源の有効利用に積極的に取り組む民間のビジネスモデル確立の支援を行っていく。不適正処理防止に向けては、松本 大規模な事業は年々減っているが、撲滅には至っていないのが現状。不法投棄などが現状。不法投棄などの不適正処理の未然防止や拡大防止のための規制強化として、今回